

## 1.はじめに（滝川理事長挨拶）

謹啓、皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

関係各位には、日頃より特定非営利法人：みらい有明・不知火の活動に深いご理解と暖かいご尽力を戴きして心よりお礼申し上げます。

目下、新型コロナウイルス感染症の猛威に加え相次ぐ豪雨災害にも見舞われており、本 NPO でも懸念しておりました“近年の自然災害の巨大化・頻発化と環境悪化”の課題に加え“コロナ禍”との負のスパイラルにどのように対処するのか！ が大きな課題として再確認され、グリーンリカバリーなど、総合的視点から対処せねばならないと状況にあると考えられます。今後の NPO の重要課題としても議論していきたいものです。

さて、本 NPO の通常総会の時期ではありますが、今回の通常総会につきましては、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、関係者の皆様の安全を最優先に考慮し、書面により議決権の行使をお願いする形で開催することになりましたので、大変恐縮に存じますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

# 令和元年度事業報告書

## 1 事業の成果

### 1-1 特定非営利活動に係る事業

#### 1-1-1 海域、陸域の環境及び国土保全に関わる調査・研究

##### (1) 有明・八代海沿岸域環境研究会の開催・運営

令和元年5月に刊行いたしました「八代海再生へのシナリオ」をテーマに最新の知見や技術情報等をシリーズとして紹介・話題を提供させていただき、「環境と防災の調和した地域社会づくり」に向けた意見交換を深める場を企画・開催したく準備して参りましたが、令和元年7月以降は8月19日熊本県立劇場において熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムと共同開催いたしました「シンポジウム：熊本県沿岸域再生の現状と展望～研究集大成（八代海再生へのシナリオ）刊行の報告と討論会～」開催に向けた活動に取り組みました。しかし、活動中盤以降は年明けからの新型コロナウイルス感染症防止対策のための活動自粛により、講習会形式による研究会の開催を見送らざるを得なくなり、会員のご期待に沿う活動が出来なかったことは残念であります。

##### (2) 「八代海再生へのシナリオ」報告書の配布

八代海についてのこれまでの研究成果や最新の科学技術的な知見を網羅し“八代海の真の再生”に資することを目標に編纂・製本した書籍「八代海再生へのシナリオ」をご提供（印刷・製本・郵送料のみを徴取）いたしております。令和元年度は、八代海・有明海をはじめ日本全国の沿岸域の再生に取り組んでおられる研究者、技術者、関係行政機関の方々から31冊のお問い合わせを受け配布させていただきました。今後、ご購入いただいた研究者、技術者、関係行政機関の方々にとって「環境と防災の調和を目指した海域再生の範例」として有効に活用していただけるものと確信しております。

## 2. 「八代海再生へのシナリオ」について

平成23年～27年の5ヶ年の時限プロジェクトとして進めてきた「生物多様性のある八代海沿岸海域環境の俯瞰型再生研究プロジェクト」の終了後、これに引き続き、プロジェクト研究成果に加え八代海沿岸域再生に関わるこれまでの膨大な研究成果や知見・最新の科学技術情報等を収集・整理・執筆・編纂作業を行い、その成果として、この度「八代海再生へのシナリオ」を刊行



編者代表 池田 清



## 1-1-2 海の交流事業と広報活動に関わる企画・運営

- ・シンポジウム：熊本県沿岸域再生の現状と展望～研究集大成（八代海再生へのシナリオ）刊行の報告と討論会～の共催（熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム）

令和元年8月19日（月）熊本県立劇場・大会議室において、「熊本県沿岸域再生の現状と展望」と題したシンポジウムを熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムとの共催で開催いたしました。

本シンポジウムは、八代海に関わる長年の研究・調査成果に基づき取り纏めた「八代海再生へのシナリオ」の刊行報告とともに、各種団体や行政機関等による沿岸域再生の取り組みを紹介し、熊本県沿岸域再生の現状の理解と今後への実効性のある方策を議論したものです。

- ・シンポジウムの次第

### 1部 刊行報告

「八代海再生へのシナリオ」刊行報告

### 2部 活動紹介：パネルディスカッション『熊本県沿岸域再生の現状と展望』

#### 第1セッション 「海の再生への取り組み事例」

『環境省の役割』

『八代海及び有明海の再生に向けた熊本県の取り組み』

『海洋環境整備船「海輝」「海煌」の取り組みについて』

『球磨川河口域・汽水域におけるヨシ原の再生について』

#### ○有明海関係

『荒尾干潟の魅力を広げていくための取組』

『カニの胃袋から海洋プラスチックゴミの問題を考える』

#### ○八代海関係

『アマモ場造成に向けた農業気象学の役割～芦北高校林業科アマモ班との連携で始まる取組例』

『干潟生物調査を通じた環境教育と地域興し』

#### 第2セッション 「パネルディスカッション」

#### ○コーディネーター「シンポジウムのねらいと海の再生について」

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム顧問 古川恵太氏

#### ○パネリスト

滝川企画運営委員長、国土交通省熊本港湾空港整備事務所、環境省九州地方環境事務所、国土交通省八代河川国道事務所、熊本県環境立県推進課

#### ○八代海関係

(株)アグリライト研究所代表取締役 園山 芳充氏、ひのくにベントス研究所長 森 敬介氏

#### ○有明海関係

熊本県立岱志高等学校理科部、荒尾市環境保全課

・シンポジウムの様子



崎元フォーラム議長



滝川理事長（フォーラム企画運営委員長）



第1部 刊行報告



第2部 討論会（セッション1）



第2部パネリストの皆様（セッション2）



第2部パネルディスカッション（セッション2）

## パネルディスカッション「さらなる一歩に向けて」のまとめ

有明海・八代海の現状は、大変に厳しい。早急に総合的・包括的かつ自主的・具体的な取り組みを皆で**豊かな海**を目指し、推進していく必要がある。

### ○（理想）なにを、だれと、どのように、いつ、どこで

- ・目標を**マスタープラン**として地域特性を活かし、国や県のレベル等のレベルの違いを意識して**それぞれの実施計画**に落とし込んで**連携して実施**していくこと（e.x. 地域循環共生圏、干潟の連携）、
- ・その中で、**科学的な視点**をもって市民・子供たちへ伝え、シビックプライドを醸成する**事例を積み上げ、産業や地域振興につなげる**こと
- ・総合的に、**拠点を活用**し、研究の視点を持ち、定常的に、継続的に、地域の振興のための**国・自治体、企業からの支援**（事務局運営、助成金、新たな技術開発など）を実施していくこと、**参加する者からも参加費**などを得ながら実施していくこと、
- ・継続できる教育として、**子供も大人も楽しく、美味しく、利害関係を越えた知識**を核に、**長期的視野でのガイド養成**や親子への啓発に取り組んでいくこと、

### ○（今できること）なにを、だれと、どのように、いつ、どこで

- ・年1回の討論会（**テーマを決めて一つずつ**：例えば、**環境教育、水産業、観光**）発表会（**事例を共有**：例えば、**荒尾干潟と水鳥・湿地センター**）の定常開催

2019年8月19日

熊本県沿岸域フォーラム：シンポジウム「熊本県沿岸域再生の現状と展望」

パネルディスカッション参加者一同

このシンポジウムの「パネルディスカッション」での発言のまとめを踏まえ、以下の主体的・積極的活動の宣言が行われました。

### 宣言：「さらなる一步に向けて」（案）

有明海・八代海の環境再生が、未だ十分に進展していない実情に対して、熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムでは、その「設立趣意書」に基づき、さらに令和元年8月19日開催のシンポジウム「熊本県沿岸域再生の現状と展望」のパネルディスカッションでの討議を踏まえ、「さらなる一步にむけて」積極的に取り組むことを宣言する。

#### （組織・体制の強化）

- ・有明海・八代海の再生、地域活性に向けて、漁業者、市民、企業、研究・教育、行政機関等、関わる多様な人々の連携体制の強化・充実をさらに図ること  
（会員の増加、活動内容の発信、活動資金の獲得・充実、事務局の充実など）

#### （課題と方針）

- ・関係する多様な人々が、有明海・八代海の海域環境及び地域環境について「共通の認識」を持ち、明確な「課題と目標」を認識できるよう、十分な啓発・情報共有を行うこと  
（環境学習・教育の実施、活動報告会・意見交換会などの開催）
- ・海域再生、地域活性化に関わる対策が、流域全体に及ぶ総合的・包括的視点に立ち、科学的根拠に基づき具体的かつ効果的であること  
（それぞれの対策が“マスタープラン（再生へのシナリオ）”とどのように関わっているのか再認識の周知、情報共有と技術開発のための勉強会開催など）

#### （さらなる展開）

- ・有明海・八代海の環境再生と地域活性化に向けて、関係する多様な人々が、それぞれの立場に応じて主体的に取り組み、各関係活動の機関・団体等との連携を強化しながら活動を展開すること  
（関係機関・団体等の連絡会議・会合の開催など）

2019年 月 日  
熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム  
企画運営委員会

### 1-1-3 環境の再生・維持及び防災に関わる地域社会支援活動

#### ・熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムの事務局活動

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムの中核をなす企画運営委員会やPT委員、運営事務局として活動を継続支援しております。

### 1-2 その他の事業

#### (1) ホームページの運用

情報発信の基盤として当NPOのホームページについて、イベントごとにコンテンツを追加するなど、活動の経過や最新の情報を順次掲載するとともに、特定非営利活動法人推進法で公告の義務が定められた「貸借対照表の公告」の掲示を行っております。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円) 端数切上
海域、陸域の環境及び国土保全に関わる調査・研究	有明・八代海沿岸域環境研究会	開催していません。				0
	「八代海再生へのシナリオ」配布	(自)R1.7.18 (至)R2.2.18	NPO事務局	人数1名 延べ10日	有明・八代海沿岸域の研究者、関係行政機関、技術者、地域住民 配布 31冊	0
海の交流事業と広報活動に関わる企画・運営	シンポジウム：熊本県沿岸域再生の現状と展望の共催 ※企画運営	1・八代海再生へのシナリオ刊行報告 2. パネルディスカッション 他 (自)R1.8.19 (至)R1.8.19	熊本市中央区大江 ・熊本県立劇場 ・大会議室	参加者 延べ17名 (準備含)	日本全国のアマモヤ沿岸域の研究者、技術者、行政関係者、地域住民 他 延べ人数 155名	95
環境の再生・維持及び防災に関わる地域社会支援活動	熊本県沿岸域再生官民連携フォーラムの支援及び事務局活動	企画運営委員会 会議 R2.7.1	メール会議	人数3名	熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム企画運営委員(6名)	0
		平成30年度通常 総会 R1.10.3	熊本県庁	人数9名	熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム関係者他(18名)	0
		令和元年度第3 回活動シナリオ 作成WG R1.9.9	NPO事務局	人数3名	有明・八代海沿岸域の研究者、関係行政機関、技術者(8名)	0

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額 (千円) 端数切上
その他	ホームページ の更新 等	(自)R1. 7. 1 (至)R2. 6. 30	熊本大学。日本ミ クニヤ	ホームページ更新 作業 延人数10名	0